

令和7年度 高速道路調査会 研究発表会(大阪)プログラム

開催日：令和7年11月14日(金) 10:00～16:30

開催場所：AP大阪駅前（大阪市北区梅田 1-12-12 東京建物梅田ビル）

EHRF 公益財団法人 高速道路調査会
EXPRESS HIGHWAY RESEARCH FOUNDATION OF JAPAN

項 目	時間 []内は 質疑応答	時間帯 []内は質疑応答
1. 調査研究事業報告		
公益財団法人高速道路調査会	0:15	10:00～10:15
2. 研究発表		
(1)大阪大学大学院工学研究科 准教授 廣畑 幹人 氏 鋼道路橋の腐食損傷部に対する当て板溶接補修に関する研究	0:25 [0:05]	10:15～10:40 [10:40～10:45]
鋼道路橋の損傷要因の一つである腐食減厚に対し、当て板補修が広く用いられている。当て板の接合には高力ボルトが使用されるが、母板への穿孔の必要性、狭隘部での施工難度の高さなどが課題となる。溶接接合はこれらの課題に対応できる可能性があるが、当て板溶接継手の力学的特性については不明な点が多い。本研究では、当て板溶接補修の適用性を検証し、減厚による耐荷性能低下を回復させるための当て板の寸法条件を提示した。		
【休 憩】	0:05	10:45～10:50
(2)神戸大学大学院工学研究科 准教授 橋本 国太郎 氏 腐食した鋼ケーブル系部材の残存耐力評価法に関する研究	0:25 [0:05]	10:50～11:15 [11:15～11:20]
腐食した平行線ケーブルの引張残存耐力は引張強度と残存断面積との積で評価できないことが既往研究で指摘されている。しかし、その汎用的かつ簡易な評価方法は確立されていない。そこで本研究では、その確立を最終的な目的として、平行線ケーブルを腐食させ引張耐力実験を実施した。実験の結果、ケーブル素線の腐食後の残存耐力はほぼ残存断面積から予測できるものの、ケーブル集合体になると腐食素線の腐食量や位置で変化することが分かった。		
【休 憩】	0:05	11:20～11:25
(3)愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 倉内 慎也 氏 Edutainment による漫然運転予防効果の実験的検討	0:25 [0:05]	11:25～11:50 [11:50～11:55]
本研究は、高速道路における漫然運転の予防策として、教育分野における edutainment の考えを応用したシステムを考案し、ドライビングシミュレータを用いた走行実験により、その効果を検証したものである。具体的には、道路情報板やカーナビアプリを介して安全運転に資する情報をクイズ形式で出題したり、安全運転に応じたポイントを付与したりするシステムをいくつか考案し、運転中の眠気抑制効果や運転挙動への影響、安全運転に資する知識やスキルの向上効果等を検証した結果を報告する。		
【昼 休 憩】	1:05	11:55～13:00
(4)東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授 井料 隆雅 氏 ETC2.0 および各種の交通データを用いた動的な起終点交通量の推計とその将来予測	0:25 [0:05]	13:00～13:25 [13:25～13:30]
動的な起終点交通量の推計とその将来予測はデータに基づく精緻な交通施策の評価に不可欠である。発表では、日本の道路管理者が利用可能な ETC2.0、道路交通センサス、車両感知器の3つのデータセットを用いた、3次メッシュ間における動的な起終点交通量の推計および将来予測の手法について紹介する。あわせて、約3年半分の実データを適用した近畿圏を中心としたケーススタディを報告する。		
【休 憩】	0:05	13:30～13:35
(5)手塚 広一郎 委員長【日本大学 経済学部 学部長 教授】 高速道路と物流施策動向に関する調査研究委員会(最終報告)	0:25 [0:05]	13:35～14:00 [14:00～14:05]
「総合物流施策大綱(2021年度～2025年度)」が令和3年6月に閣議決定され、物流DXの推進など今後の物流が目指すべき方向性が示されたことから、施策動向の把握や高速道路への対応状況などを踏まえ、社会的見地から望ましい物流施策を実現するために、高速道路が果たす役割について、調査研究を行い、令和7年9月に、高速道路が果たす役割、そのあり方や将来像について、9つの提言と今後の継続課題について、取りまとめたものである。		
【休 憩】	0:05	14:05～14:10
(6)齋藤 潮 委員【東京工業大学(現:東京科学大学) 名誉教授】 高速道路の景観史に関する調査研究委員会(最終報告)	0:25 [0:05]	14:10～14:35 [14:35～14:40]
わが国の景観工学は、道路の計画・設計において安全性、快適性の実現に貢献すべく高速道路創成期に始動した。以後60余年、わが国の高速道路建設は、道路線形、土工、橋梁等構造物、パーキングエリアの計画・設計において機能的・美的景観の創出を内包しながら発展してきた。本報告は、高速道路建設をめぐる景観創出の履歴について、その思想的原点から書き起こし、社会情勢や政策の動きとともに追跡・記録したものである。		

【休 憩】	0:05	14:40～14:45
(7)ハイウェイ開発株式会社 大阪支店 南大阪事業所 長沼 斉房 氏 第66回 海外道路調査団(アメリカの高速道路等における最新の維持管理・ 雪氷対策・ITS 等技術の調査報告)	0:25 [0:05]	14:45～15:10 [15:10～15:15]
海外道路調査団は、海外の高速道路事業を中心とした道路及び道路交通に関する取組みについて、道路関係の諸機関を訪問し、意見交換、施設視察を通じて学ぶ機会を持つことを目的としている。本発表は、第66回海外道路調査団として、アメリカの高速道路等における最新の維持管理・雪氷対策・ITS 等技術に関して、現地調査および意見交換を行った結果を報告するものである。		
【休 憩】	0:05	15:15～15:20
(8)二羽 淳一郎 委員長【東京科学大学 名誉教授】 橋梁技術の変遷に関する調査研究委員会(最終報告)	0:25 [0:05]	15:20～15:45 [15:45～15:50]
わが国最初の高速道路「名神高速道路」が開通してから 60 年が経過し、現在総延長約 9,200km、橋梁数は約 21,000 橋に及ぶ。本研究は、1986 年 4 月に取りまとめられた『高速道路の橋』に続く形で、それ以降に建設、改築、大規模補強された橋梁を取りまとめ、新たな『高速道路の橋』として、高速道路における橋梁技術の記録、技術の伝承を図るものである。本発表は、この膨大な橋梁の内、様々な視点から特徴的な数橋を選び、その概要について紹介する。		
【休 憩】	0:05	15:50～15:55
(9)田邊 勝巳 委員長【慶応義塾大学 商学部 教授】 社会的に望ましい高速道路料金のあり方に関する調査研究委員会(中間報告)	0:25 [0:05]	15:55～16:20 [16:20～16:25]
日本の高速道路料金については 1994 年の改定以降、世論の動向や物価が安定していたため、基本料率の改定は議論されてこなかったが、近年物価や金利が上昇している。一方、欧米諸国では、物価上昇に合わせて見直されてきたため従来 2～3 倍と言われた日本の高速道路料金は、ほとんど欧米と変わらない水準となっている。こうした背景の中で、社会的に望ましい高速道路の料金制度について、欧米の事例を参考にして検討した結果について中間報告を行う。		
3. 閉 会 挨拶		
公益財団法人高速道路調査会	0:05	16:25～16:30



- CPD/CPDS の「受講証明書」を配布します【リアル開催限定】

- 会場受付にて、希望者にのみ配布

土木学会認定 CPD 認定プログラム(5.5単位)/

全国土木施工管理技士会連合会 CPDS 認定プログラム(101-1 3ユニット 101-2 2ユニット)

- TOP/TOE-CPD 認定プログラム(受講証明書配布無し、各自申請)

一般社団法人交通工学研究会認定プログラム、項目 CO1.(1)として各自 CPD 単位数を申請できます。

＜オンデマンド配信のご案内＞※CPD 認定プログラムの対象外です。

【配信期間】 令和7年11月25日～12月26日(予定)

- ・本講演会の内容について、アーカイブ動画配信を行います。
- ・配信期間初日に、メールにてオンデマンド配信についてご案内します。